

NY 市場レポート（前日 21 時 00 分～午前 5 時 30 分まで）

米ダウ平均は反落、ナスダック、S&P500 は続伸

米株式市場では、新型コロナウイルスの治療薬として初めて抗ウイルス薬が正式に承認されたことを好感して主要株価指数は堅調な展開で始まり、ダウ平均株価は序盤に前日比 72 ドル高まで上昇した。しかし、経済対策の与野党協議の先行き不透明感が高まったとの見方から下落に転じ、さらに前日の決算発表を受けて半導体大手のインテルが大幅安となったことも全体を引き下げた。ダウ平均株価は、一時 213 ドル安まで下落したものの、引けにかけて下げ幅を縮小し、28.09 ドル安（-0.10%）で終了。一方、ハイテク株中心のナスダックは終盤にプラス圏まで上昇し、42.28 ポイント高（+0.37%）で終了した。



データを基に SBILM が作成

ドル円・クロス円はやや上値の重い動き

欧州市場の流れを引き継ぎ、ドル円・クロス円は序盤から堅調な動きとなった。ドル/円は、一時 104.88 まで上昇したものの、アジア時間につけた高値の 104.94 には届かなかった。その後、米国の主要な経済指標の発表がなく、上昇して始まった米主要株価指数が下落に転じたこともあり、ドル円・クロス円は上値が重い動きとなった。一方、欧州時間に発表されたドイツやユーロ圏の製造業 PMI が予想に反して上昇したことを好感して、ユーロ買いが優勢となり、NY 市場序盤にかけてドルや円に対して堅調な動きとなった。しかし、フランスやイタリアでは新型コロナウイルスの感染者数が過去最多を更新したとの報道を受けて、ユーロはやや上値が重い動きとなる場面もあった。また、英国と EU の通商交渉で、懸案となっている漁業権の問題で楽観的な見方が示されたとの報道を受けて一時ポンドは上昇したものの、交渉に対する先行きの不透明感が根強く、その後は下落に転じてドルや円に対して上値が重い動きとなった。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様自身でお願いします。